

令和8年2月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和8年2月号」をお送りいたしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

八戸地方に春を呼ぶ豊年祈願の郷土芸能「八戸えんぶり」が2月17~20日に開催されます。

えんぶりの一番の見どころは、太夫と呼ばれる舞手が馬の頭をかたどった華やかな鳥帽子を被り、頭を大きく振って舞う「摺り」です。その舞は、種まきから稲刈りまでの稲作の一連の動作を表現したもので、独特な唄に合わせて舞うさまは神秘的な趣があります。摺りの合間に行われる子どもたちのかわいらしい祝福芸も人気です。

また、3月31日まで「八戸ブイヤベースフェスタ」も開催中です。地物魚介類のおいしさを生かした参加店のスタイルや味わいを是非お楽しみください。

▼八戸えんぶりについて

https://visithachinohe.com/stories/enburi_schedule/

▼八戸ブイヤベースフェスタについて

<https://www.hhrp.jp/hbb/>

◎皆様へのお願い

所属、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 03-3261-8973 / FAX 03-3239-6723

E-mail tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸レポート 2月号

令和8年1月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市がマチニワナイトマーケット 被災店舗食べて応援
(2)	子どもの居場所マップ公開 八戸市327施設紹介
(3)	八戸市 被害額76億円 被災中小企業に補助金 全壊住宅は公費で解体
(4)	東京で「八戸圏域食旅フェスタ」復興アピール、観光に来て
(5)	八戸の強み 高校生が紹介 地元企業への取材を通して発見
(6)	国内最大級CF「CAMPFIRE」、八戸市と災害支援協定を締結

【産業】

記事	
(7)	東北エモーション 運行再開「おかえり」
(8)	ビームス支援受け土産品開発 「つづれや」(八戸) など県内 6 事業者
(9)	国際物流拠点化推進協が訪韓 八戸港 荷役に支障ない
(10)	八戸酒造 「八戸ワイン」を初製造 南郷産ブドウ果汁100%使用
(11)	エプソンアトミックス(八戸) 北インターに新工場 アモルファス合金粉末増産へ

【地域】

記事	概要
(12)	八戸えんぶり 八戸駅・上野駅でPR
(13)	八戸市民病院・八工大共同研究 市民病院敷地内 救急車円滑通行
(14)	冬の朝市開幕 八戸市第3魚市場A棟
(15)	冬の八戸 魅力味わう JR八戸線で種差、鮫駅周辺巡るツアー
(16)	シン八戸が新イベント「タラリンピック」開催

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	冬季五輪出場 スピード女子・吉田選手(盛岡出身) YSアリーナ八戸で総仕上げ
(18)	「ヴァンラーレ八戸の将来像」形に 百年構想委員会設立
(19)	光星センバツ出場決定 2年ぶり12度目 頂点へ闘志
(20)	あおもり国スポ開幕 49年ぶり完全開催

【行政】

記事	
(1)	八戸市がマチニワナイトマーケット 被災店舗食べて応援 昨年12月に発生した地震で被害を受けた店舗を支援しようと、八戸市は1月9日、三日町のマチニワで「八戸に元気を！マチニワナイトマーケット」を開いた。ナイトマーケットはこれまで街路空間の日常的な活用に向けて開催してきたが、今回は被災店舗の売り上げ確保やPRにつなげようと、被害届出申請書を提出した店舗や国道45号の通行止めで休業した事業者に声掛け。会場にはハンバーガーやドーナツ、和菓子などの7店舗が出店し、仕事帰りの市民や家族連れが出店者との交流を通して買い物を楽しんだ。
(2)	子どもの居場所マップ公開 八戸市327施設紹介 八戸市は1月21日、子どもたちが安心して過ごせる場所の情報を一元化した「子どもの居場所マップ」をインターネット上に公開した。マップは家や学校以外の「第三の居場所」として放課後に過ごせる場所やスポーツ、文化活動などの目的に合った場所を子どもやその保護者が見つけやすくするのが狙い。市内にある公共や民間の計327施設を「放課後児童クラブ・児童館」「生活・学習を応援する場所」「スポーツ・運動」など8つのジャンルに分類して表示している。市の産学官連携の事業である「子どもまちなかＩＴ部」（愛称・こまちラボ）のホームページ内に掲載している。
(3)	八戸市 被害額76億円 被災中小企業に補助金 全壊住宅は公費で解体 昨年12月に八戸市内で最大震度6強観測した地震を受け、熊谷市長は1月21日、中小企業の早期再建を図るため500万円を上限とした補助金の交付や、全壊の判定を受けた個人の住宅について公費負担で解体撤去を行う方針を示した。また、市内の事業者や公共施設などの被害額は75億9848万円に上ると明らかにした。最も大きいのは商業施設や飲食店など商工関係の69億4110万円で、次に学校や公民館など文教施設の被害が2億4995万円と続く。JR八戸線の高架橋やNTT青森八戸ビルの鉄塔の被害額は、非公表のため含まれていない。
(4)	東京で「八戸圏域食旅フェスタ」復興アピール、観光に来て 八戸圏域8市町村の食や観光の魅力をPRするイベント「八戸圏域食旅フェスタ」が1月24、25日の両日、八戸都市圏交流プラザ「8 base」が入居する、東京・内幸町の商業施設「日比谷OKUROJI」で開催された。圏域のファンを創出するほか、昨年12月の地震から復興が進む状況をアピールし、首都圏の人たちに観光などで足を運んでもらおうと八戸圏域の8市町村が主催。会場の物販ブースには地元の特産品のニンニクやなんばんみそなどが並び、特産品や地酒の試食、試飲コーナーも設けた。各市町村は観光パンフレットなどを配布し、地域の魅力を伝えた。
(5)	八戸の強み 高校生が紹介 地元企業への取材を通して発見 高校生の目線で地元企業の魅力を探り、情報発信する八戸市の事業「チャーム∞（エイト）」の成果発表会が1月25日、市内で開かれた。市内7校33人が参加。10チームに分かれ取材や写真撮影のこつを学び、製造や小売り、建設業など2社ずつ計20事業所を訪問した。発表会では取材した市内企業の事業内容や技術、製品などを紹介。「八戸で世界を舞台に仕事ができる」「ものづくりの一連の工程を自社で担える」など取材を通して発見した「八戸の強み」を伝えた。2月中にリポートをe-book（電子書籍）として公開し、発表会の動画もYouTubeで配信する予定。

	国内最大級CF「CAMPFIRE」、八戸市と災害支援協定を締結
(6)	昨年12月に八戸市内で最大震度6強を観測した地震を受け、八戸市は1月27日、国内最大級のクラウドファンディングサービスを提供する「CAMPFIRE（キャンプファイヤー）」（東京）と災害支援協定を締結し、同日から市内の被災事業者を対象とした「災害支援プログラム」を開始した。同社が自治体と協定を結んだのは初めて。被災事業者は2月末までに特設サイトを通じて申し込み、審査を経れば、集まった支援金のうち決済手数料5%を除く95%を受け取れる。通常12%の掲載手数料を全額免除とするほか、市内企業に手続きのサポートを依頼し、復旧や事業継続を切望する事業者の取組を後押しする。

【産業】

記事	概要
	東北エモーション 運行再開「おかえり」
(7)	昨年12月に発生した地震の影響で休止となっていたJR八戸線のレストラン列車「TOHOKU EMOTION（東北エモーション）」が1月9日、運行を再開した。予定されていた上下20本が運転できず、約800人分の予約がキャンセルを余儀なくされた東北エモーション。再開第1号の列車を出迎えようと、種差海岸近くの踏切では種差観光協会の会員らが「おかえり」「八戸・三陸の観光は元気です！」などと書かれた横断幕を広げ、窓越しに手を振る乗客と笑顔を交わした。
	ビームス支援受け土産品開発 「つづれや」（八戸）など県内6事業者
(8)	服飾雑貨大手ビームス（東京）と青森県の支援を受けてインバウンド向け土産品の開発を進めてきた県内の6事業者が1月13日、県庁で宮下宗一郎知事に完成した商品を報告し、県内のバイヤー支援機関向けの説明会を開いた。八戸市の「つづれや」は、裏地に古い風呂敷などを使用しヴィンテージ感を強調した南部菱刺しの巾着や、菱刺しのワンポイントがアクセントとなるパッチストールを開発。商品は2月25日まで、ビームスジャパン新宿店や公式オンラインショップでテスト販売される。
	国際物流拠点化推進協が訪韓 八戸港 荷役に支障ない
(9)	国際コンテナ航路の維持、拡充を目指し、八戸港国際物流拠点化推進協議会（会長・熊谷市長）のミッション団が1月13～16日の日程で韓国を訪れポートセールスを行った。訪問は地震の前から予定されており、2年ぶり。市や県、八戸港振興協会などが参加し、八戸港との定期航路を持つソウル市の船会社4社や釜山港湾公社などに市内で震度6強を観測した地震による被災状況を説明した。各社は荷役に支障がない状況に理解を示したという。八戸港の24年のコンテナ貨物取扱量は4万242本（20fコンテナ換算）で、訪問した4社が7割を占める。
	八戸酒造 「八戸ワイン」を初製造 南郷産ブドウ果汁100%使用
(10)	八戸酒造は、南郷産のブドウ果汁を100%使用したロゼワイン「8000 wineマスカット・ベリーA」と、日本酒の陸奥八仙を使ったリキュール「ゼネラル・レクラークのお酒」を1月26日から数量限定で販売した。ロゼワインは、昨年秋に南郷地区で収穫されたマスカット・ベリーAを原料とした同社初の八戸ワイン。リキュールは南部町や三戸町産のゼネラル・レクラークの果汁をブレンドし、濃厚で飲みやすい仕上がりになっている。ワインは1,300本限定で720ml入り2,200円、リキュールは各2,000本限定で720ml入り2,200円、1.8L入り3,960円（いずれも税込み）。オンラインショップなどで購入できる。

	エプソンアトミックス（八戸） 北インターに新工場 アモルファス合金粉末増産へ
(11)	電子機器などに使われる金属粉末製品を生産するエプソンアトミックス（八戸市）は1月29日、同市の北インター第二事業所内に「アモルファス合金粉末」の新工場を増設すると発表した。人工知能（AI）やデータセンター向けなどにアモルファス合金粉末の需要が拡大することを見込み、建物や生産設備に約40億円を投じて生産能力を現在のおよそ年間約6,000tからおよそ8,000tに増強する計画。今年9月に着工し、2028年1月の稼働を見込む。同社は2004年に世界で初めてアモルファス合金粉末の量産化に成功。電圧制御部品の省エネルギー化や軽量化につながるとして、スマートフォンや自動車など幅広い産業で採用されている。

【地域】

記事	概要
	八戸えんぶり 八戸駅・上野駅でPR
(12)	昨年12月から始まったJR東日本などによる「青森県・函館観光キャンペーン」に合わせ、1月10日、八戸駅でえんぶりの披露が行われた。VISITはちのへが企画し、1月の毎週土曜に実施。太夫の躍動感あふれる摺りで、列車から降りた観光客らを出迎えた。また、10日には東京・上野駅でも八戸えんぶりのPRが開催され、冬場の観光誘客につなげようと、動画の放映や観光パンフレットの配布などで駅利用者らに八戸えんぶりの魅力を発信した。
	八戸市民病院・八工大共同研究 市民病院敷地内 救急車円滑通行
(13)	八戸市民病院と八戸工業大は、救急車が同病院の敷地内をスムーズかつ安全に通行できる環境整備に向けて共同研究を進めている。病院敷地内の横断歩道は人と車両の往来が激しいことから、救急患者の迅速な受け入れと事故リスク低減につながるユニバーサルデザインを探ってきた。1月14日は、同大学で学生11グループによる改善案の発表が行われ、遮断機の設置や通路を区切る花壇の整備など車両、歩行者双方からの視認性向上や動線確保などの案が示された。今後、病院側で採用する対策の候補を絞り検討を進める。
	冬の朝市開幕 八戸市第3魚市場A棟
(14)	館鼻岸壁朝市を運営する湊日曜朝市会は1月18日、八戸市第3魚市場A棟で「冬の朝市」を初開催した。昨年12月に始まったJR東日本などによる「青森県・函館観光キャンペーン」の一環で、屋内外に地元鮮魚店や飲食店など約70店舗が出店。この日はオープニング限定のせんべい汁300食が振る舞われたほか、A棟建物内には飲食スペースも用意され、温かい朝食を楽しむ市民や観光客でにぎわった。冬の朝市は、3月8日まで毎週日曜日の計8回、朝5時～9時開かれる。
	冬の八戸 魅力味わう JR八戸線で種差、鮫駅周辺巡るツアー
(15)	八戸市で旅行・観光事業を手がける「ACプロモート」は1月18日、JR八戸線と種差海岸遊覧バス「うみねこ号」を利用し、「種差冬バル」と鮫駅周辺の飲食店を巡る初のツアーを開催した。冬の観光コンテンツの新規造成つなげようと、3月まで計5回開催される「種差冬バル」の第2回に合わせて実施。ツアーの案内料を無料、交通費および飲食費を各自負担として参加者を募り、市内外から約20人が参加。一行は本八戸駅で集合し、八戸線とうみねこ号を乗り継ぎ種差へ移動。冬バルを楽しんだ後、鮫駅周辺の飲食店を訪ね、地元グルメを堪能した。

	シン八戸が新イベント「タラリンピック」開催
(16)	八戸港に水揚げされた水産物のブランド化を目指す八戸水産価値向上実行委員会（愛称・シン八戸）は1月25日、八戸市の「浜市場みなとと」で、八戸産マダラの魅力を発信するイベント「タラリンピック」を開催した。マダラの新たな食べ方を提案し、価値を再認識してもらおうと新イベントとして企画。市内の飲食店などがマダラを使ったナゲットやじゅっぱ汁、ホルモンの加工品などを販売したほか、地元の定置網船が水揚げしたマダラの切り身の詰め放題イベントも開催。八戸産ホッキガイの貝焼きやサバ串焼きも人気を集め、大勢の来場者が冬の味覚のおいしさに触れた。

【文化・スポーツ】

記事	概要
	冬季五輪出場 スピード女子・吉田選手（盛岡出身） YSアリーナ八戸で総仕上げ
(17)	スピードスケート女子でミラノ・コルティナ冬季五輪に出場する吉田雪乃選手（盛岡市出身）が1月24、25日、練習の拠点としているYSアリーナ八戸で行われた小学生大会でテストレースを行い、国内最後の調整を終えた。今季W杯の500mで3度表彰台に立った吉田選手は、メダル獲得有力候補に挙がる500mと1,000mの2種目で五輪に初出場する。25日は大会に続き交流会が開かれ、熊谷市長や小中学生約50人が集まりエールを送った。吉田選手は関係者や応援する子どもたちへの感謝を伝えつつ大舞台での活躍を誓った。
	「ヴァンラーレ八戸の将来像」形に 百年構想委員会設立
(18)	サッカーJ2に昇格したヴァンラーレ八戸は1月30日、官民の関係機関を交えてクラブの将来像を幅広く議論する「ヴァンラーレ八戸百年構想委員会」の初会合を開いた。八戸市を含むホームタウン16市町村や県、経済、観光などの関係団体など約25人が出席。5年後の2030～31年シーズンにJ1昇格を目指すロードマップを提示するなど、今後の本格的な検討に向けて基本的な考え方を共有した。売上高や平均入場者数の目標も設定。委員会はクラブ運営や地域活性化、新スタジアム整備などについて議論を交わしながら、7月までに検討結果をまとめる方針。
	光星センバツ出場決定 2年ぶり12度目 頂点へ闘志
(19)	第98回選抜高校野球大会の出場32校を決める選考委員会が1月30日、大阪市内で開かれ、昨秋の東北大会で準優勝した八戸学院光星が選ばれた。同校のセンバツ出場は、2024年以来2年ぶり12度目。部員ら約70人は同日、校内に設置したスクリーンで出場校発表のライブ配信を見守り、校名が読み上げられると、真剣な表情で選考理由の説明に耳を傾け、悲願の全国制覇に向けて闘志を燃やしていた。組合せ抽選会は3月6日に大阪市で行われ、大会は3月19日から13日間、阪神甲子園球場で開催される。
	あおもり国スポ開幕 49年ぶり完全開催
(20)	第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」冬季大会スケート・アイスホッケー競技会が1月31日、八戸市と三沢市で開幕した。青森県内で同競技会が開かれるのは2023年以来3年ぶり。10月に控える本大会を含めた完全大会としては、1977年の「あすなろ国体」以来49年ぶりとなる。同競技会には選手、役員ら約2,300人が参加し、2月8日までの9日間にわたり、スピードスケート、フィギュア、ショートトラック、アイスホッケーの4競技を実施。同日はSG GROUPホールはちのへ（八戸市公会堂）で開始式が行われ、42都道府県の選手たちが「氷都」での完全燃焼を誓った。

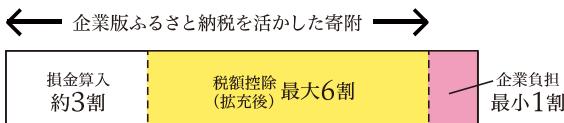
企業版ふるさと納税の3つの魅力

1 税制上の優遇が受けられる

損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、税額控除(寄附額の最大6割)により、最大で寄附額の約9割が軽減されます。

2 社会貢献

SDGsやESGへ寄与できます。



3 自社PR

ご寄附をいただけた企業様を八戸市HPとSNSでご紹介いたしますので、企業様のPRに繋がります。

申込み方法

- 電話
- メール
- 二次元バーコード

申込み・お問合せ先

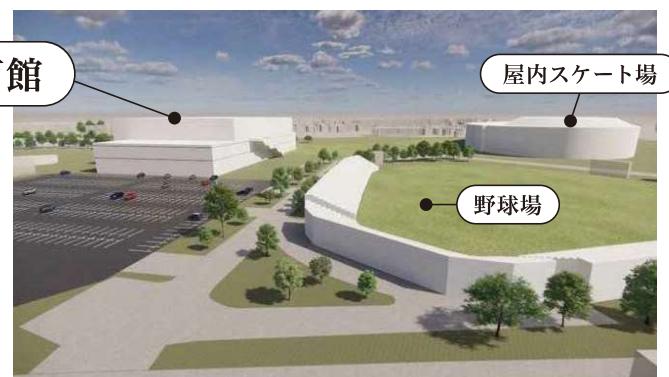
政策推進課
企業版ふるさと納税担当
TEL:0178-43-9233
Email:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp



[寄附受付事業]

●新体育館の建て替え

スポーツやイベントなど、市民の多様な活動の場として、年間約37万人に利用されています。竣工から半世紀以上経過していることや、時代の移り変わりとともに変化する多様なニーズに応えるため、計画的に準備を進めています。



新体育館

●八戸市の魅力発信

八戸市のマスコットキャラクター「いかづきんず」や公式SNSなどを活用して、当市の魅力を広く発信しています。

- 魅力を発信することで
- ◎市民の地元に対する愛着や誇りを醸成したい。
 - ◎国内外の人々の当市への関心を高めたい。
 - ◎交流人口や定住人口の創出・拡大につなげたい。



●八戸産ぶどうを活用したワイン産業振興

農業振興のみならず、商工業や観光業にも繋がる「ワイン産業」の振興を目指しています。



●創業・事業継承の支援拠点運営

創業及び事業継承の支援拠点を設置し、専門家による相談対応やセミナー開催等により、創業希望者等を支援しています。

●八戸市ブックスタート事業

八戸市在住の赤ちゃんとその保護者を対象に、おすすめブックリストや絵本をプレゼントしています。

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。→ 
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

送付先・お問合せ先

広報統計課 ふるさと寄附金担当
 〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1
 TEL:0178-43-2319
 FAX:0178-47-1485
 Email:furusatotax
 @city.hachinohe.aomori.jp

インターネット

- 下記5つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



ふるなび

JRE MALL



Amazonふるさと納税



八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っています。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いします。

また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい！」「八戸が大好き！」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください！



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。（控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。）

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。



八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 大西 伸一郎 [主査] 斎藤 千聖 [事務員] 浜井 章代